群教セ	G09 － 02
	平16.221集

自分の考えを積極的に英語で表現しようとする生徒の育成を目指した指導の工夫

── 音声表現の繰り返し活動を通して ──

特別研修員　　田部井　繁巳　（明和町立明和中学校）

《研究の概要》

本研究は、音声表現の繰り返し活動を通して、自分の考えを積極的に英語で表現しようとする生徒の育成を目指したものである。具体的には、スキットを作成し気持ちを込めてスキットを上演する活動を行った。その過程で、英語を聞いたり、音読したり、自分の気持ちを込められるように練習したりする等の音声表現の工夫を繰り返し行うことで、英語で表現することに成就感、達成感を感じ、英語を表現しようとすると考えた。

【キーワード：英語－中　音声表現　繰り返し活動　自分の考え　表現】

Ⅰ　主題設定の理由

国際化の中、国際交流が盛んになり、日本人が海外へ行く機会が増えたり、外国人を迎えたりする機会が多くなっている。また、情報化の中、インターネットや E メールの普及に伴って英語に接することが増えている。このような状況の中で、英語を正確に理解し、自分の考えや気持ちを相手に効果的に伝える力が求められている。学習指導要領においても、『話す』という言語活動の配慮事項として「自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと」が挙げられ、そのためには「明瞭で適切な音量で話すことや、大切なことを強調して話すことなどの必要性を理解させる」ことが重要であるとしている。したがって、単に英語の文法規則や語彙などについての知識をもっているだけでは十分ではなく、学んだことを生かして主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが重要である。

生徒の実態をみると、英語を使って話をしてみたいと考えている生徒がほとんどであるが、実際に英語で話す時になると、英文が口から出てこない生徒が多い。その要因としては、自分の願いや思いを英文にできなかったり、英語の発音、アクセント、リズム、イントネーションに自信がないため、声に出して英文を言うことに躊躇（ちゅうちょ）してしまっていることが考えられる。英語の表現力を高めるためには、英文を繰り返し読み、基礎的・基本的事項の定着を図ることが必要不可欠である。また、発音、アクセント、リズム、イントネーションに自信をもてるようになるには、英文を繰り返し声に出して練習することが大切である。さらに、自分の考えを効果的に伝えられるようになるためにも、音声表現の工夫を繰り返す必要がある。そこで、これまでの文法規則や語彙などの知識の習得を中心とした授業を改善し、自分の願いや思いをまとめて表現する機会を設定しつつ、音声表現を繰り返し練習する必要があると考える。音声表現の繰り返し活動を通した表現活動に慣れることで、自信をもち、英語を使って自分の願いや思いを表現できるようになると考える。

そこで、本研究は英語で表現する場において、音声表現の繰り返し活動を行う。具体的には、まず、基礎表現や慣用表現を調べながら、個に応じた音声表現の工夫を繰り返し行う活動をする。そして、調べた基本例文の一部を書き換えたり、新しい英文を付け加えたりしながらオリジナルスキットを作成し、作成したスキットの英文の録音と視聴を繰り返し行う活動をする。

さらに、ジェスチャーを交えた自分の気持ちの表し方を繰り返し行う活動をし、作成したスキットを上演する。なお、職業の英語名を確認する際、基礎表現を確認する際、スキットを作成する際、自作のスキットを練習する際は、用意された支援ページを必要に応じて活用できるようにする。また、それらの支援ページはパワーポイントを使用し作成する。パワーポイントはプレゼンテーション用ソフトであり、視覚に訴えながら何度も同じことを繰り返すことが容易にできるため、繰り返し活動には有効であると考える。生徒たちは『総合的な学習の時間』の中でコンピュータに高い関心を示しており、パワーポイントの活用に慣れている点でも利用価値が高いと考える。

以上の理由により、音声表現の繰り返し活動を通して自分の考えを積極的に英語で表現しようとする生徒の育成ができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

英語で表現する場において、音声表現の繰り返し活動を行えば、自分の考えを積極的に英語で表現しようとすることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　つかむ過程において、スキットづくりのテーマに関連した英語の基礎表現や慣用表現を調べ、それらの表現を音読する、音声表現の繰り返し活動を行えば、スキットづくりの基礎的な英語表現に慣れるであろう。

2　追究の過程において、使用場面を明示し、学習してきた表現を生かしたスキットを作成し、作成したスキットの録音と視聴をする、音声表現の繰り返し活動を行えば、自分の考えを相手に伝えようとするであろう。

3　深める過程において、状況を設定し、自分の気持ちをより効果的に伝えられるよう気持ちの表し方を工夫する、音声表現の繰り返し活動を行い、作成したスキットを上演すれば、英語で表現できたことに成就感や達成感を感じることができ、自分の考えを積極的に英語で表現しようとするであろう。

Ⅳ　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　自分の考えを積極的に英語で表現しようとする生徒とは

「自分の考えを積極的に英語で表現しようとする生徒」とは、自分の願いや思いを、学習してきた言語材料や慣用表現を生かしながら、ジェスチャーなどを用い、表情豊かに主体的に相手に伝えることができる生徒ととらえた。そのためには、基礎的な英語表現力を身につけること、自分の思いや願いがより効果的に伝えられるように音声表現の工夫ができるようになること、英語で表現できたことに対して成就感、達成感を感じることが重要であると考える。

(2)　音声表現の繰り返し活動とは

生徒の興味・関心が様々であるのと同様、英語で表現できる力も様々であり、まとまった英文をすらすら読める生徒もいれば、英単語の発音さえうまくできない生徒もおり、音声表現力の差が非常に大きい。また、英語で表現する力を向上させ、自分の考えを効果的に伝えられる

ようになるためには、基本的な英語表現や慣用表現を覚え、音声表現の工夫を繰り返し行うことが効果的である。具体的には、つかむ過程において、基礎表現や慣用表現を覚えるとともに、英語学習に必要な発音、アクセント、リズム、イントネーションを習得するための練習を、個々のペースで繰り返し行う。追究の過程において、オリジナルのスキットを書いた後、自分の思いを込めて英文を言えるようになるために、英文の録音と視聴を繰り返し行う。深める過程において、スキットを全体の前で効果的に演じるために、ジェスチャーなどを用いながら、相手に自分の願いや思いを効果的に伝える工夫を繰り返し行う。音声表現の繰り返し活動を行うことにより、英語の基礎的・基本的事項を覚えるとともに、自分の願いや思いを表情豊かに伝えることができるようになると考える。

2　研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

(1)　授業実践計画

時期	平成 16 年 10 月下旬～ 11 月上旬	教科	外国語（英語）
対象	邑楽郡明和町立明和中学校　2 年 C 組　男子 19 名　女子 19 名　計 38 名		
題材名	英語で夢を語ろう	時間	7 時間

(2)　抽出生徒

A 女	英語で表現することに興味をもっているが、基礎的な英語表現力が身に付いていないため、活動に参加できないことが多い。支援ページの表現の活用の仕方を助言し、文法の仕組みを理解させた後、音声表現の繰り返し活動を行うことで、基礎的な英語表現力を身に付けられるように支援していきたい。
B 男	基礎的な英語表現力は身に付いているが、積極的に自分から話したり、書いたりする活動に参加できないことが多い。積極的に友達と協力するよう助言し、音声表現の繰り返し活動を行うことで、英語で表現する楽しさを味わわせ積極的に英語で表現できるように支援していきたい。

(3)　検証計画

	検証の内容	検証の方法
見通し1	つかむ過程において、「私の夢」というスキットづくりのテーマに関連した英語の基礎表現や慣用表現を『職業』、『基礎表現』及び『職業別表現のページ』を活用しながら音声表現の繰り返し活動を行うことは、スキットづくりの基礎的な英語表現に慣れることに有効であったか。	観察 自己評価カード①
見通し2	追究の過程において、「友達同士の休み時間の会話」や「先生と生徒の授業中の会話」等の使用場面を明示し、『基礎表現』及び『職業別表現のページ』を活用しながら、スキットを作成し、作成したスキットの録音と視聴を行う音声表現の繰り返し活動を行うことは、英語で相手に伝えようとするのに有効であったか。	観察 ワークシート 自己評価カード② 作品
見通し3	深める過程において、「小道具や写真等を用いて会話が行われる状況」を設定し、『上演のページ』を活用しながら、ジェスチャーを交えた音声表現の繰り返し活動を行い、作成したスキットを上演することは、英語で表現できたことに対して、成就感や達成感を感じ、自分の考えを積極的に表現しようとする態度を育成するのに有効であったか。	発表 自己評価カード③－Ⅰ・Ⅱ、④ 相互評価カード

(4)　支援ページについて

音声表現の工夫する際、生徒が必要に応じて個々のペースで英文を繰り返し見たり、その音声を繰り返し聞いたりすることができるように、パワーポイントを使用して次のような支援ページを作成する。

○　『職業』のページ

職業の英語名を確認する際、職業のリストを見ることができる。それらを参考に自分のなりたい職業を選択し、その音声を繰り返し聞くことができる。

○　『基礎表現』のページ

スキットづくりの基礎表現を確認する際、基礎的な関連表現や慣用表現を調べることができる。さらに、それらの音声を繰り返し聞くことができ、個々のペースで音読練習ができる。

○　『職業別表現』のページ

スキットを作成する際、職業別にスキットの内容を考えられるように、職業別の関連表現及びモデルスキットの英文を見ることができる。さらに、それらの音声を繰り返し聞くことができ、個々のペースで音読練習ができる。

○　『上演』のページ

自作のスキットを音読練習する際、上演しているスキットの映像を繰り返し見て、自分の意図を効果的に伝える方法を参考にすることができる。

Ⅴ　研究の展開

1　題材の考察及び目標

題材の考察	本題題では、「私の夢」というテーマでのスキットづくりを通して、自分の願いや思いを英語で表現する活動をする。スキットを作成し上演するまでの過程で、できるだけ音声表現の繰り返し活動を行うことで、自信を持って自分の願いや思いを英語で表現できるようになると考えられる。つかむ過程では、支援ページでスキットづくりの基礎表現や慣用表現を調べ、それらの音読練習を繰り返し行う活動をする。追究の過程では、支援ページを参考にしオリジナルスキットを作成し、作成したスキットの録音・視聴の音声表現の繰り返し活動を行う。深める過程では、作成したスキットをジェスチャーを交え、願いや思いが表せるよう、支援ページを参考に音声表現の繰り返し活動を行ったのち、小道具を使いながら発表する上演会を行う。このような音声表現の繰り返し活動を通して、自分の考えを積極的に英語で表現しようとする生徒を育成することができると考える。
目標	「私の夢」というテーマでのスキットづくりを通し、音声表現の繰り返し活動に取り組むことで、英語で表現する楽しさに気付き、成就感、達成感を感じ、自分の願いや思いを英語で積極的に表現するようになる。

2　評価規準（資料編参照）

3　指導計画（資料編参照）

Ⅵ　研究の結果と考察

1　つかむ過程において、「私の夢」というスキットづくりのテーマに関連した英語の基礎表現や慣用表現を『職業』、『基礎表現』及び『職業別表現のページ』を活用しながら音声表現の繰り返し活動を行うことは、スキットづくりの基礎的な英語表現に慣れることに有効であったか。

最初に、ＡＬＴと「私の夢」をテーマにしたスキットを上演し、最終的にどんなスキットを作成するのかを例示した。『職業』のページで代表的な職業を調べ、作成するスキットで話題にしたい職業を決定した。次に、『基礎表現』及び『職業別表現』のページ（以下『表現のページ』）でスキットづくりに必要な慣用表現や単語を調べ、それらの英文の繰り返し音読練習をした。生徒は支援ページで自分の興味をもった表現を調べ、スキットづくりに必要な表現を繰り返し音読していた。評価シートで 30 人中 24 人の生徒が「繰り返し発音することで発音がわかった」、30 人中 26 人の生徒が「スキットづくりに必要な表現がわかった」と評価している。

Ａ女は、なりたい職業に「パン屋」を選び、『表現』のページを活用しながら英語の発音や基礎表現や慣用表現を熱心に調べていた。音読練習をする場面では、声を出すことに抵抗があり声を出さなかったが、「ヘッドフォンをしているから、自分の声は友達には聞こえないよ。自信をもって音読してみよう。」と助言すると、少しずつ声が出るようになり、コンピュータに向かって繰り返し音読していた。初めは恥ずかしくて発音できなかったが、だんだん慣れてきて声が出るようになった。何度も英文を読んで、スキットづくりに必要な表現が分かったようである。

Ｂ男は、なりたい職業に「プログラマー」を選び 、意欲的に関連表現を調べていた。音読する場面では最初は声が出なかったが、「自分の苦手なところあらためて気付くことができるよ。」と助言すると、小さい声であったが、繰り返し音読していた。評価シートに「繰り返し練習することで、発音は上手になった」と評価し、感想欄に「支援ページには、知らなかった単語や表現も多くて勉強になった。」と記述していた。

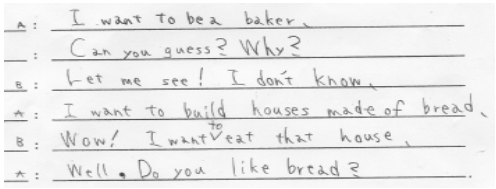
以上のことから、つかむ過程は、英語の基礎表現や慣用表現を調べ、それらの表現を音読す

る、音声表現の繰り返し活動を行えば、スキットづくりの基礎的な英語表現に慣れるのに有効であったと考える。

2　追究の過程において、「友達同士の休み時間の会話」や「先生と生徒の授業中の会話」等の使用場面を明示し、『基礎表現』及び『職業別表現のページ』を活用しながら、スキットを作成し、作成したスキットの録音と視聴を行う音声表現の繰り返し活動を行うことは、英語で相手に伝えようとするのに有効であったか。

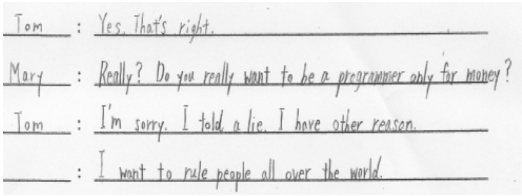
まず、会話が行われる場面を設定し、『表現のページ』を活用し、ペアでスキットを作成した。どのペアも、10 行程度のスキットをつくることができた。18 組のペアのうち 15 組は、自分らしい表現を付け加えることができた。次にペアで作成したスキットの英文を、コンピュータで録音・視聴を繰り返しながら、思いが伝わる表現になるよう音声表現の工夫を行った。平均５回・多いペアで 10 回以上録音・視聴を繰り返していた。自己評価シートに、「思ったように英文を読めるようになった」と 37 人中 32 人の生徒が評価している。また、感想に「発音が上手になった気がするので、覚えた英語を使ってスキットが上演できそう。」という内容の記述も多かった。

【資料１】A女のペアのスキット(オリジナル部分)



Ａ女のペアは、会話の場面を「職業について話をしている学級活動の時間」と設定した。英文にする段階で、『表現のページ』の基礎表現の文法事項を説明すると、“I want to build houses.”と書いていたので、「パン屋さんになりたかったのではなかったの。どんな家なの。」と聞くと文に「パンで出来た家」と答え、“made of bread”と付け加え、資料１のようなスキットを完成させることができた。感想に「オリジナルスキットを作ることができてよかった。」と記述していた。視聴・録音の繰り返し活動では、初めは発音に自信がなく録音ができなかったが、「コンピュータに録音するのだから、間違っても何度も録音できるよ。試しに自分の発音を聞いてみよう。」と助言すると、少しずつ録音できるようになった。視聴・録音を１時間あたり平均５回繰り返し行い、英語らしく発音できるようになった。感想でも、「初めは恥ずかしかったけれど、頑張った。たくさん発音し録音したので、発音がよくなった気がする。すごく嬉しくなった。」と記述していた。さらに、自分の考えを英語で伝えていこうとする意欲の高まりも感じられた。

【資料２】B男のペアのスキット(オリジナル部分)



B 男のペアは会話の場面を「休み時間の会話」と設定した。『表現のページ』を参考にしながら、スキットを作成していたが、オリジナルな文を作ることができなかったので、「何か最後に付け加えたいことはないですか。」と助言すると、ペアの女子が「ゲームの中で世界を支配するのはどう。」と考えを出すと、B 男は「いいな、それ。」と嬉しそうに言い、資料２のような英文を付け加えることができた。視聴・録音の繰り返し活動では、視聴・録音を１時間あたり平均６回慎重に繰り返し、評価シートに「発音、アクセントに気を付けて練習でき、少し英語らしく発音できるようになった。思ったように読めるようになった。」と評価していた。感想でも、「何度も練習しているうちに、声も大きくなり発音もよくなってきたので、発表では上手く気持ちが込められるといいなと思った。」と記述していた。

以上のことから、追究の過程では、作成したスキットの録音と視聴をする、音声表現の繰り

返し活動を行うことは、英語で相手に伝えようとするのに有効であったと考える。

3　深める過程において、「小道具や写真等を用いて会話が行われる状況」を設定し、『上演のページ』を活用しながら、ジェスチャーを交えた音声表現の繰り返し活動を行い、作成したスキットを上演することは、英語で表現できたことに対して、成就感や達成感を感じ、自分の考えを積極的に表現しようとする態度を育成するのに有効であったか。

生徒達は『上演のページ』を参考にし、自分達で作ったスキットのセリフをペアで思いが伝わるよう、文の抑揚や声の大きさ等の音声表現の工夫を熱心に行っていた。ジェスチャーや小道具を使いながら上演することができた。上演が終わると、笑みがこぼれるペアも多かった。評価カードの感想の欄に、「自分で作った英文をスキットとして上演できてよかった」という内容を記述している生徒が多かった。さらに授業後の感想で、「英語をどんどん使っていきたい」という意欲的な内容の感想も見られた。

A 女のペアは「他のペアのよいところを参考にしてみよう。」と助言すると、他のペアを見て参考にしながらスキットを繰り返し６回練習し、上演に臨んだ。ジェスチャーを交えながら他のペアの良いところを取り入れ、自分の夢が発表できた。資料３のような感想を記述していることから、成就感や達成感を感じ、自分の考えを表現することに対し積極性が増したと考えられる。

【資料3】 A女のスキットを上演した感想

自分で作ったスキットを最後までできたのでとてもよかったです。またスキットを作りたいです。

B 男のペアは「立派なスキットが書けているのだから、自信を持って演じよう。」と助言すると、『上演のページ』を見て、ジェスチャーの仕方を研究しながら、スキットを繰り返し 15 回練習し、堂々とした態度でアイコンタクトをとりながら発表していた。「繰り返し練習したので、自分の言いたいことが少し伝わった」と自己評価し、資料４のような感想を記述している。

【資料4】 B男の授業後の感想

スキットが上手にできてよかった。たいへんだったけど楽しかった。今度、スキットをやる機会があれば、もっと言いたい事が伝わるようにしたい。

以上のことから、深める過程は、自分の気持ちをより効果的に伝えられるよう気持ちの表し方を工夫する、音声表現の繰り返し活動を行うことは、英語で表現できたことに対して、成就感や達成感をもたせ、自分の考えを積極的に表現しようとする態度を育成するのに有効であったと考える。

Ⅶ　研究のまとめと今後の課題

○　音声表現の繰り返し活動は、基礎表現や慣用表現が身に付き、英語で相手に伝えようとすることに対して自信をもたせ、さらに英語で表現できたことに対して、成就感や達成感を感じさせ、英語を使って自分の考えを相手に伝えようとする意欲を高める上で有効だった。

○　録音・視聴やスキットの繰り返し活動については、生徒により進捗状況に差が生じた。そこで個の進度で学習できるよう、今後は基礎コース・発展コースなどのコースに分けるなど、習熟度別のコースを設定していく工夫をしていきたいと考えている。

〈参考文献〉

・ 田中　正道　編　『英語の使用場面と働きを重視した言語活動』　教育出版(2000)
・ 高橋　一幸　著　『授業づくりと改善の視点』　教育出版(2003)